

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 3 月 10 日 (2011.3.10)

【公開番号】特開 2008-248241 (P2008-248241A)

【公開日】平成 20 年 10 月 16 日 (2008.10.16)

【年通号数】公開・登録公報 2008-041

【出願番号】特願 2008-56517 (P2008-56517)

【国際特許分類】

C 0 8 G 65/18 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/10 (2006.01)

C 0 8 F 212/34 (2006.01)

C 0 8 F 116/16 (2006.01)

C 0 9 K 11/06 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 65/18

H 0 5 B 33/14 B

H 0 5 B 33/22 D

H 0 5 B 33/10

C 0 8 F 212/34

C 0 8 F 116/16

C 0 9 K 11/06 6 9 0

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 1 月 26 日 (2011.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2 種以上の架橋性化合物を含有する有機デバイス用組成物であって、
該架橋性化合物のうち、少なくとも 2 種は、架橋基の数が異なることを特徴とする、有機デバイス用組成物。

【請求項 2】

少なくとも 2 種の架橋基の数が異なる架橋性化合物が、
それぞれ、正孔輸送部位を有し、単一の分子量を有する化合物であることを特徴とする、請求項 1 に記載の有機デバイス用組成物。

【請求項 3】

架橋基の数の少ない架橋性化合物を、架橋基の数の多い架橋性化合物よりもモル比で多く含有することを特徴とする、請求項 2 に記載の有機デバイス用組成物。

【請求項 4】

少なくとも 2 種の架橋基の数が異なる架橋性化合物が、それぞれ、正孔輸送部位を有し、繰り返し単位を有する重合体であって、該少なくとも 2 種の重合体の繰り返し単位当たりの平均架橋基数及び / 又は繰り返し単位以外にある架橋基数が異なることを特徴とする、請求項 1 に記載の有機デバイス用組成物。

【請求項 5】

繰り返し単位当たりの平均架橋基数が L A である架橋性化合物 (A) および繰り返し単

位当たりの平均架橋基数が L_B である架橋性化合物 (B) を含有し、 L_A および L_B が、それぞれ下記式 (I) および (II) を満たし、

架橋性化合物 (A) および架橋性化合物 (B) が、それぞれ、共重合体であることを特徴とする、請求項 4 に記載の有機デバイス用組成物。

$$L_A > L_B \quad \dots (I)$$

$$(L_A - L_B) / L_B \geq 0.05 \quad \dots (II)$$

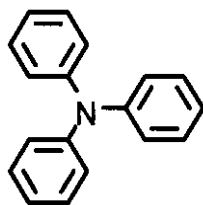
【請求項 6】

架橋性化合物 (A) : 架橋性化合物 (B) が、重量比で、1 : 1 ~ 1 : 20 であることを特徴とする、請求項 5 に記載の有機デバイス用組成物。

【請求項 7】

架橋性化合物が、下記式で表される部分構造を有する化合物であることを特徴とする、請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の有機デバイス用組成物。

【化 1】



【請求項 8】

有機電界発光素子用であることを特徴とする、請求項 1 ないし 7 のいずれか 1 項に記載の有機デバイス用組成物。

【請求項 9】

請求項 1 ないし 7 のいずれか 1 項に記載の有機デバイス用組成物を成膜後、該架橋性化合物を重合させて得られることを特徴とする、高分子膜。

【請求項 10】

基板上に、陽極および陰極と、該陽極および陰極の間に配置された有機層とを有する有機電界発光素子において、該有機層の少なくとも 1 層が、請求項 8 に記載の有機デバイス用組成物を成膜後、該架橋性化合物を重合させて得られる層であることを特徴とする、有機電界発光素子。

【請求項 11】

該有機層として、正孔輸送層および発光層を含み、

該正孔輸送層が、請求項 8 に記載の有機デバイス用組成物を成膜後、該架橋性化合物を重合させて得られる層であり、

該発光層が、湿式成膜法により形成された、分子量 10000 以下の低分子系発光材料を含有する層であることを特徴とする、請求項 10 に記載の有機電界発光素子。